

『もっと！！本野通信』 No.143

諫早市立本野小学校長 永 井 洋



退職校長会の先生方 ～教育支援～

現場をご退職になられ、明峰中学校校区在住の先生方が、20日から、本校の学習支援、図書室運営サポートに来校されています。20日は、2名の先生方が2年生と4年生の支援に入られました。「しっかり先生の話聞いていますね」や、「人数は少なくても友だちと、一緒に頑張ろうとしている姿が良かったです」というお声を聞きました。

12月15日まで、毎日ではないのですが、合計8日間来校していただく計画です。



お膳立てで伸びるか？

先日、高校時代の友人に再会しました。大学での研修会でのことでした。その友人は、大学で教鞭をとっています。研修が終わり、昔話に花が咲き、夕食に行くことになりました。話の中心は、「おぜんだて」についてでした。大学の課題やテストでよく「レポート提出」を課すそうですが、最近の学生からの声に、次のようなものがあるそうです。①何を見て書けばよいのですか？ ②書けなかったらどうなるのですか？ ③合格、不合格はあるのですか？ などだそうです。最近の学生と接していて、「何とか自力で、最後までチャレンジしよう」という意欲を感じるのが少ないそうなのです。

帰宅して少し考えてみました。「本野小学校はどうだろう、失敗しないようにと必要以上のことまで支援したり、助けたりしていないだろうか…」と。確かに成功体験は子どもの自信となり、次の活動への意欲になります。しかし、それが行き過ぎると「自分で考える」とか「工夫する」とかいう力を奪いかねないことになる…。自分の子育てもふり返り、どちらかだけでなく、そのさじ加減が大切ではないかと結論付けました。皆さんのご家庭ではいかがでしょうか。

- | | |
|---------|------------|
| 1 乳児の時は | 肌身離さず |
| 2 幼児の時は | 肌を離して手を離さず |
| 3 少年の時は | 手を離して目を離さず |
| 4 青年の時は | 目を離して心を離さず |

体験学習6 音楽会 ～御館山・北諫早・上諫早・本野～

22日に音楽会が開催されました。音楽会は、毎年3～5年生が出演します。これまで2回経験している5年生が、下級生をリードしながら、練習に取り組んできました。披露した曲は、合奏「夢をかなえてドラえもん」郷土芸能「本野節」です。

他校の演奏も直接鑑賞しつつ、これまでの練習の成果を十分に発揮し、大いに刺激を受けたのではないのでしょうか。これからの学習や学校生活にいかし、さらに成長してほしいです。



～校長室の窓から～

10月初めの日曜日のことです。トランス・コスモススタジアムでは、陸上競技 100m走の記録会が開催されていました。何とかぎりぎりで混雑している駐車場に車を駐車したところ、外から車内にも聞こえてくるような大きな声が聞こえてきました。様子を見てみると、だいたいの察しが付きました。食堂などの店舗の駐車場と、競技場利用者の駐車場のことで、運転手と警備員の方が言い争いになっているようでした。

【警備員さんの言い分】

- ①この先は店舗利用者の駐車場であること
- ②大会の主催者から依頼を受けて案内していること

【運転手の言い分】（すごい声でした）

- ①子どもが、スタートに間に合わなかったらどうしてくれる！（その声を子どもが聞いているのでしょうか…）
- ②応援に間に合わなくなる！（時間に余裕をもって…）
- ③空いているなら少しくらいの間はいいだろう！（客が来たら…）

どう思われますか？まず、時間をよく考え、余裕をもって出発する。事前の駐車場についてのアナウンスをよく確認する。（小体連も駐車場のルールがあります）大切なことです。10月1日から、国がハラスメント対策強化の法整備を打ち出したことも注視すべきことです。